■会員の住所変更について

本誌は、学生が学部に届け出ている保証人住所宛に送付しています。保証人住所を変更される場合は学生本人による手続きが必要です。
学びステーションまで学生証を持参の上、手続きするようお子さまにお伝えください。

※最近、立命館や関係団等の名刺を利用した悪質なビジネス等が横行しております。父母教育後援会は、会員の照会を学生には一切行っておりませんので、くれぐれもご注意ください。

父母教育後援会ホームページのご案内

http://www.ritsumei-fubo.com

立命館大学のホームページからは…
「保護者の方」をクリック

立命館大学父母教育後援会だより　2017年度 冬号
2017年12月発行　立命館大学父母教育後援会
〒604-8520 京都市中京区西ノ京朱雀町1　Tel.075-813-8261　Fax.075-813-8262

巻頭特集①

立命館大学の社会貢献

巻頭特集②

学園祭2017

2017年度
冬号

立命館大学
父母教育後援会だより
Parents Association of Student Education Assistance Newsletter

Contents 2017年度 冬号

巻頭特集①
P3…… 立命館大学の社会貢献

巻頭特集②
P11…… 学園祭2017

P14… ゼミナール訪問

P18… 部活動&サークル Watching

P20… 知への扉
～vol.6 産業社会学部 竹内 謙彰教授～

P22… 卒業生からの手紙＜三通目＞

P23… 京都水紀行③

P24… 「卒業生父母の会」のご案内

P26… お知らせ

News 衣笠キャンパス西側広場テラスに新たな設備が完成

テーブルの上に設置されたオーニングは、開閉式になっており、雨よけや日よけになります。

大学では、衣笠キャンパスの大規模な再整備事業に取り組んでいます。2016年4月には平井嘉一郎記念図書館が開設され、旧図書館の跡地は人工芝が敷かれた広場となり、学生の憩いの場となっています。父母教育後援会として、西側広場に、雨や日差しを遮ることができるオーニングと、テーブルや椅子の整備に対する支援をおこないました。この支援により、西側広場の席数は160席となり、外で食事をとる学生も多く見られます。

立命館大学の社会貢献

学生たちの活動は、学内の正課だけに止まりません。
大学という枠を超えて社会の人々と交流し協力することが、新たな学びにつながります。
さらに、学生たちの活動は地域や社会の人々の生活に貢献しているものも多く、
その取り組みをご紹介します。

正課の学びも活かした活動と学生の学習意欲を支える仕組み

立命館大学では学生たちの課外での学びも推奨しており、活動のサポートも積極的におこなっています。これらは正課の学びから派生したものや、クラブやサークルなどの課外活動から広がったものなどさまざまで、社会的にも高く評価されています。「例えば、建築を学ぶ学生が、公園の利用者を増やすための改善策を企画し実施するなど、地域の課題を学びにつなげることは、学生にはまたとない生きた教材。机上の話とは異なり、相手の反応を結果として実感することは学生たちにとって有益ですし、地域にもメリットがあります」と理工学部建山和由教授も語るように、日本経済新聞社による大学の地域貢献度調査において、全国748大学のうち私立大学で本学がトップに。学生たちの学びが結果的に社会貢献・地域貢献にもつながっています。

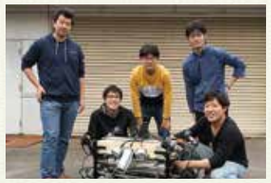
学生の活動スタイルはさまざまなものがあり、地域社会貢献をテーマにした活動には活動資金が援助されるなど、支援体制も整っています

学部プロジェクト団体	学部の学びを活かした組織的かつ継続的なプロジェクト活動。
自主ゼミ	学部での学びを深めるための自主的な学習集団活動。 印刷費・教室貸与等の援助がある。
助成金採用団体・採用者	学びのコミュニティ集団形成助成金、＋R校友会未来人財育成奨学金（成長支援）等、学生の自主的な取り組みを応援する助成金制度に採用された団体もしくは個人。

理工学部 川村 貞夫ゼミ

湖の環境保全や調査を支える水中ロボット

川村ゼミで研究している水中ロボットはすでに何台も開発されており、例えば＜海観（みかん）＞はハイビジョンカメラを備え、超音波信号により水中で本体位置が計測できるため、文学部の矢野健一ゼミと共に琵琶湖湖底に眠る須恵器などの探索に活躍中。現在、急ピッチで開発が進められているダム用＜堤瑕無（テイカム）＞は、ダムの堤体に傷や亀裂がないか調べるためのもの。どちらも人が作業することが困難で、活動条件が厳しい場面で活躍することが特徴。「プールで動いても、現場で動かなければ意味がない。海や湖に入れば水の流れも邪魔な海藻もあり、条件は厳しくなります。それを体感し開発に活かすためにも実際に作業するプロジェクトは大切」と川村教授。学生たちも経験を活かしロボットに改良を重ねています。



＜海観（みかん）＞はすでに何度も琵琶湖で水中遺跡の発掘調査に出動し、実際に須恵器を発見。小型化しカメラを増やして観測しやすくするなど、改良を重ねより機能的に進化。

理工学部
川村 貞夫教授

「学生たちは企業や利用者とも協力し、誰もが使えるロボットを開発しなくてはいけません。そのためにも学外で人に会い、現場での経験が必要なのです」。

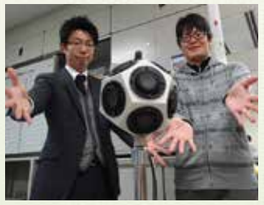
情報理工学部 西浦敬信ゼミ

学外での実験・活動を通して快適な音場空間を構築

金沢駅前でオーディオスポットによる体験型社会実験を実施。
スポットに立ったときだけ説明を聞くことができる不思議なスピーカーを前に観光客も興味津々。

岩手県大船渡市の仮設住宅での騒音の快音化実験。住んでいる方から意見をもらい、研究の課題を見つけていく。

公共施設での放送や券売機のアナウンスなど、スピーカーは私たちの普段の生活に実は密接に関わる機械の一つ。西浦ゼミではある領域のみに音を伝えるオーディオスポットや、騒音に別の音響信号を覆い被せることで快音化するなど、さまざまな技術を駆使したスピーカーを開発しており、それらは実際に社会でも役立てられています。例えば、京都の町でラジオ体操の音が問題になり、オーディオスポットの技術を活用。周囲に不要な音を出さずラジオ体操ができると好評です。「現場で使うことで実際に人が感じるデータも取れますし、学生たちにも良い経験です」と西浦教授。学生たちも、実際に使ってみていろいろなことが分かると学外での活動を大切にしています。



情報理工学部
西浦 敬信教授

「学生たちは学外での交流や活動も多く、その経験は卒業後も役立っていると感じます」。

情報理工学部の西浦ゼミ。現在も数種類のスピーカーが学生たちにより研究されている。

現在研究中の光レーザーマイクロホン。よく見ると、赤いレーザーが放たれているのが見える。これは音の振動を映像のようにキャッチし、音として再現できるため、遠く離れた場所の音や窓などで隔たれた空間の音も聞こえる。

立命館大学経営学部プロジェクト団体
丹後村おこし活動チーム

地域での活動を通して学びを得る

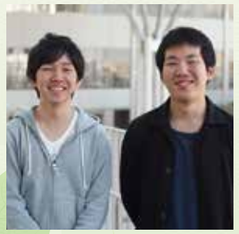
日本でも数棟しか残っていない笹葺き家屋の維持管理・修復活動をおこなっている。屋根には刈り取った笹が使用されている。

2008年より中山間地の休耕田を借用し、農薬・化学肥料を使わず、可能な限りの手作業で米を栽培している。

彼らの活動は、経営学部の中村雅秀ゼミの正課が始まり。京都府北部の宮津市上世屋にある老朽化した二棟の笹葺き古民家を、地域の方々やNPOと協力しながら、修復・管理し活用することが目的でした。その後も地域で継続して活動をおこない、2005年からは経営学部のプロジェクト団体として認可され、今年で14年目を迎えました。現在は笹葺き古民家の修復管理だけでなく、米づくり、収穫した米を使用した味噌づくり、丹後の生産者の方々の想いを商品にのせて、茨木の消費者に届ける物産販売など4つの事業があり、昨年からは畑作も始めるなど、活動はまだまだ拡大中。彼らの休耕田を利用した米作や畑作のほか、雑草駆除作業などは周辺地域の景観を守ることにも繋がっています。「自然を相手にした実体験や活動中に出会った人々との交流を通して、様々なことを考えさせられ、それが自分達の学びにも繋がっています」と、学生たちは毎週丹後に通い頑張っています。

2014年より一般の参加者を交えた＜味噌づくりワークショップ＞を毎年開催。チームで栽培した米などを使用し、手づくりの味噌を仕込んでいる。今年も出来上がった味噌や米のほか、丹後の生産者に商品を提供してもらい、OICで販売もおこなっている。

アメリカのジョージア州立大学の学生らとともに丹後でフィールドワークも実施。写真のお膳で食べる和食体験のほか、チームが修復活動をおこなっている笹葺き家屋や味噌や醤油の醸造所を見学。



竹内 慧さん
事務局長　経営学部２回生

内田 昌人さん
代表　経営学部３回生

「自然が相手なのでマニュアル通りには進まない。でも地元の人々に支えられながら、その都度考え解決する力がつきました」と、学生たちは多くを学び自らも成長を実感しています。

災害復興支援室

学生と大学が一体となり支える被災地への地域貢献

学校のグラウンドに仮設住宅が建設され、充分に運動できない中学校での運動サポートがおこなわれた。

理工学部
常任理事（企画担当）
建山 和由教授

「災害復興支援は、東日本大震災だけでなく台風などの各地の災害にもボランティアを派遣し、さまざまなエリアで学生たちが活躍しています」。

2011年に発生した東日本大震災で甚大な被害を受けた地域に向けた活動のきっかけは、自主的な学生たちの動きでした。「災害発生直後から自主的に現地へボランティアへに行く学生や、支援活動に参加したい学生の声が高まり、災害復興支援室を立ち上げ、大学全体で活動することに。震災直後はまとまった人数で活動したほうが効率的で、地域にも喜んで受け入れていただきました」と語る建山教授。これまでのべ約1,300名の学生が活動に参加し、岩手県大船渡市の中学校を対象とした運動・健康支援や、岩手県宮古市に簡易集会所ODENSEを建設するなど、多岐にわたる支援活動をおこなっています。「当初5年間の活動を予定していましたが、現在は教職員の寄付を活動資金として取り組んでいます」と、地域との絆もでき、今後の災害対策にも活かすため、活動は続けられています。

check

災害復興支援室の活動はこちらからご覧になれます。
http://www.ritsumei.ac.jp/fukkor/
また、父母教育後援会も復興支援のため古本募金をおこなっております。
(詳しくはP27を参照)

がれきの撤去清掃だけでなく、子どもたちに向けてクリスマス会を開催したり、夏休みの勉強をサポートするなど幅広い活動をおこなっている。

支援と思いが形になった簡易集会所ODENSE

理工学部建築都市デザイン学科・宗本晋作教授と、有志のゼミ生たちが中心となりプロジェクトがスタート。当初は簡易な構造の施設を検討していましたが、現地でのヒアリングの結果、仮設住宅で暮らす方々より居間がわりにできる屋内スペースや炊事場などの要望が出され、ドーム型の集会所が完成。建設には岩手や関西の企業や、地元大工・佐々木春雄さんの支援を受け、約30名の学生が参加し3週間にわたって工事をおこないました。

完全屋内型でトイレ、炊事場、畳約15畳分のスペースを持つ。空間の広さ・強度を確保するのにも効率的な形状として、サッカーボールを半分に切ったような形に。プロジェクト名のODENSE（おでんせ）は岩手の言葉で「いらっしゃい」という意味。現在は、デイケアサービスや地域の方々の交流の場として利用されています。

課外活動から生まれた学生たちのさらなる貢献

正課だけでなく、学生たちの課外活動においても地域に貢献する活動が数多くあります。クラブやサークル活動などの各団体では定期的に地域に向けたイベントなどをおこなっています。

和太鼓ドン

伝統を地元の人々と共に支える

設立20周年を迎える彼らの活動は、日本各地の踊りや太鼓演奏といった伝統芸能に取り組み、京都を中心に公演活動をおこなっています。盆踊りや祭への演奏依頼が数多く、夏は特に忙しく1日3公演することも。中でも、青森県の今別町でおこなわれる<荒馬まつり>は大切なイベント。荒馬は馬に扮した男性と手綱取りの女性の二人一組で踊る伝統芸能。「団体設立メンバーが荒馬を本場で教えてもらおうと2000年に青森に出向いたのがきっかけで、それ以来地元の祭にも参加しています」と語る安藤さんと津田さんもこの踊りが大好きだそう。メンバーは保存会の人々に教わり、後輩へ伝承しながら祭に参加。実は過疎化により存続の危機にあった荒馬を彼らが継承し、その活動の輪がさらに広がることで伝統芸能が保存され、祭が盛り上がることで地元からも感謝の声が上がっています。最初はよそ者である学生たちを遠巻きに見ていた地元の人々も、今ではすっかり家族のように彼らの訪問を楽しみにしておられます。

8月に行われる荒馬まつりは町内でも一大イベント。メンバーは地元に宿泊施設もないため公民館を貸してもらい合宿。卒業生たちは地元の各家に滞在するそう。「本当に温かく迎えてもらっていて、訪れるとお帰りと言ってもらえるのが嬉しい」と彼らも訪問を楽しみにしている。

学生たちの長年の活動に対し、地元の人たちを代表して大川平荒馬保存会より、感謝の手紙が大学に届きました。

お礼を言いたくて、突然ですがお手紙を書きました。16年前、和太鼓ドンというサークルが今別町の伝統芸能荒馬を習いに大川平を訪れました。はじめは大川平の地区の皆さんも、よそ者が伝統芸能をやるなんてという不信感もありましたが、学生達の情熱、真剣さに心をうたれ地域に溶け込むようになりました。当時、少子高齢化で過疎化が進み伝統芸能荒馬も存続できなくなる状態でしたが、学生達のおかげで地域の若者も参加するようになりました。今は、立命館アジア太平洋大学、名古屋大学の仲間と一緒に今別町の伝統芸能荒馬を私たちと一緒になって守って、祭りを盛り上げてくれています。本当に学生達のおかげです。本州最北端の小さな小さな町の伝統芸能を救ってくれました。感謝に耐えません。

立命館大学の学生達は私たちの誇りでもあります。どうしても感謝を申し上げたくこの手紙を書きました。本当に本当にありがとうございます。

安藤 翔一さん
産業社会学部３回生
代表

津田 みずきさん
国際関係学部３回生
自主公演代表

今年からは加賀太鼓を学ぶため新たな試みもスタートするなど、精力的に活動中。

立命の家

近隣の小学生へ科学を楽しく学ぶ機会を提供

各団体ごとに地域貢献する一方で、BKCでは連携することでより大きなイベントをおこなおうと、毎年<立命の家>という企画を開催。「近隣の小学生に向けたプログラムを企画し、さまざまな体験をしてもらうという内容で、17年間続いています」と後藤さん。ロボット技術研究会やライフサイエンス研究会など約10の団体が参加し、主に科学を楽しく理解し体験できるプログラムを企画し運営しています。「僕も大学で好きなことを学んでいるので、その学びがこの企画で活かされて、子どもたちが夢を見つけるきっかけになったり、大学紹介になると良いと思います」。2017年度は約200名の応募者の中から150名の小学生が参加。保護者にも好評で口コミでも評判が広がり応募人数が増えているそう。

趣向を凝らしたプログラムが楽しいと評判で、毎年参加しているリピーターの小学生もいるほど。

後藤 拓海さん
理工学部２回生
2017年度立命の家実行委員長

プログラムでは、子どもたちに理解でき、学校では教わらないことを企画している。

子どもたちが安全に楽しく実験などができるよう、複数の学生たちが気を配って、企画を運営している。

学外国際交流

異文化交流に留学生が活躍

本学には留学生たちも多数在籍しており、学外での活動にも積極的。例えば、OICは開設より地域へ開かれたキャンパスとして認知されており、国際教育センターには教育委員会や学校などから、「海外研修を予定している高校生たちと英語で会話してほしい」、「小学校の国際理解教室プログラムで、留学生の母国を紹介して、小学生と交流してほしい」など、留学生たちとの交流を目的とした依頼が寄せられています。毎年15件ほどの依頼があり、各内容に応じて留学生たちが出向きます。実際に大阪府立槻の木高等学校との国際交流に参加したADITYAさんは、「大学内では分からない日本文化や習慣に触れることができ、交流を通じて、子どもたちが私の母国に興味を持ってくれるのも嬉しい」と活動に積極的。交流の中で書道や折り紙など、日本文化に触れる機会も留学生たちにとって魅力です。

槻の木高等学校の生徒がOICに訪れ、留学生たちと英語で交流。

対象は幼稚園児から高校生まで幅広い。各施設へ赴くこともあれば、大学内でおこなわれる交流会もある。

ADITYA Wahyu Wijanarko
政策科学部3回生
インドネシア出身

ADITYAさんのほか中国やアメリカ、ミャンマーなど活動に参加する学生の国籍はさまざま。

学生法律相談部

対話して初めて学べる法律の意義

法学部の学生が組織する学生法律相談部では、毎月無料法律相談を開催。「特に相続や不動産関連の相談件数が多くて、予想外の案件もあります。まさに社会の縮図というか、この活動をしていないと知らなかったことばかりです」と、教授や弁護士などのOBからもサポートを受けながら案件に真剣に取り組んでいます。さまざまな人が相談に訪れますが、頼りなげに思われないようにきちんとスーツ着用で応対し、相談内容などのプライバシーを厳守。さらに、「例えば、借金があるかと聞くのではなく、借りているお金はありますか？などと相談者を傷つけない、不快感を与えない表現で、分かりやすく話すように心掛けています」と、言葉遣いにも細心の注意を払いながら、学部での学びを実践し、市民の方々を手助けしています。

松本 美貴さん
部長 法学部２回生

井上 みづわさん
広報局長 法学部２回生

「相談後は心を軽くして笑顔で帰ってもらいたい」と全員で親身に案件に取り組んでいる。

無料法律相談会は毎月学内で開催されており、誰でも相談に訪れることが可能。案件は教授やOBも交えて検討してから、相談者へ結果を報告する。日程についてはウェブサイトで公開しており、定期的に大津や福知山などにも出張し、移動相談会を開いている。

http://adviceroom.com/rits-housou

体育会本部

体育会所属学生による琵琶湖への恩返し

この活動は体育会所属の学生たちによるものですが、きっかけは体育会全体の意識変化だったそう。「強いだけでなく、地域の方々からも愛され、応援されるチームになり、さらには活動を通じた体育会全体の横のつながりを強めるために企画しました。昨年は京都駅周辺の清掃活動をおこないました」と池上さん。今年は琵琶湖で問題化している外来水生植物のオオバナミズキンバイの駆除活動を実施。この駆除活動は一斉におこなうことが効果的で、多くの人員が必要なため、体育会に所属する約50団体の1,150名の学生が参加。「定期開催の企画ではありませんが、これからも後輩たちには地域に役立つプロジェクトを発信して欲しい」と池上さんたちも願っています。

池上 昂志郎さん
経済学部４回生
体育会本部委員長

自動車部所属。今回の企画の発案者でもあり、さまざまな申請や手続きにも奔走した。

滋賀県及びNPO法人国際ボランティア協会も共催する大きなプロジェクトに発展。活動日は雨を避けるため数ヶ月前から天気予報を確認し、夏の熱中症対策も万全の態勢で挑み、当日はトラブルも病人も出さず無事に終了した。

学園祭 2017

Beyond Borders
恐れるな 踏み出せ

今年度は10月15日（日）大阪いばらきキャンパスを皮切りに、
11月26日（日）びわこ・くさつキャンパス、12月3日（日）衣笠キャンパスと、
キャンパスごとに開催された学園祭。
BKCは花火が打ち上がるなど、
各祭典ごとに特色のある企画が華やかに実施されました。

特色のある企画の数々に 地域の人々や保護者も参加

今年度の共通テーマは<Beyond Borders>。国籍・性別・年齢・学部など、さまざまな境界を越え、多様性を身につけることを日々実践している学生たちが、学園祭でも参加する全ての人の可能性を広げるために、「恐れずに一歩、踏み出そう」という思いを込めて開催しました。各キャンパスごとにテーマを設け、特色を打ち出した学園祭は学生だけでなく、地域の人々や保護者も楽しめる内容に。OICは<スポーツ×交流>をテーマに、スポーツ体験など来場者参加型のイベントが多数。BKCは<表現×LIVE>をテーマに、音楽系団体の学生たちが、メインステージのほか各所にもうけられたステージで数多くのライブを開催。最後におこなわれた衣笠キャンパスでは、日本の伝統芸能を学ぶ学芸団体が多いため<文化×学び>をテーマに研究成果や伝統芸能企画を披露しました。

坂本 卓哉さん
2017年学園祭実行委員長
文学部4回生

「キャンパスごとに持ち回りで週1回ペースで会議を開き、準備してきました。大変な作業でしたが、今年はキャンパスごとに特徴が出ていて、特にOICでは体育会系団体が企画を催すなど、今までにない試みもおこなっており、学生だけでなく子供や地域の方々、保護者のみなさんにも楽しんでいただけると思います」。

OICではあいにくの雨でしたが、メインステージ上には父母教育後援会が寄贈した空のプラザの大きな屋根が雨よけに。「この屋根のおかげで助かりました」と実行委員長の坂本さんも胸をなでおろしていました。

どのキャンパスを訪れても、ゴミがなく驚くほど美しいのは、学生たちの徹底したゴミ管理の努力の証。

父母教育後援会から提供している模擬店用チケットの配布も、学生の誘導でスムーズに行われました。

見て、触れて、体験！

奇術研究会マジックプレイヤーズ
テーブルごとに目の前で披露されるマジックの数々に、みなさん身を乗り出して興味津々。「さっぱり分からない」とトリックに驚いていました。

マンドリンクラブ
穏やかな音色に誘われて、演奏を聴きに訪れる人が多かったマンドリン。普段あまり耳にすることのない楽器の美しい演奏にうっとり。

飛行機研究会
毎年人気の飛行機研究会の展示。大きな翼の機体に驚く子どもたちや、操縦席に乗って楽しむ親子の歓声が上がっていました。

ライフサイエンス研究会
立命の家（p9）でも子どもたちに人気の企画を催している。学園祭では、スーパーボール作りなどに熱中する子どもや大人で大にぎわい。

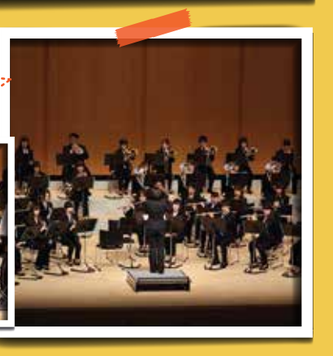
落語研究会
「飲食も自由ですよ」と、大衆演劇らしく和やかな雰囲気の中スタート。会場は常に笑いに包まれ、立ち見も出るほどの人気ぶりでした。

音響工学研究会
学生たちが自作した自慢のスピーカーを展示。さらに、子どもにもできる紙コップを使ったスピーカー作りも開催し、熱中する姿が見受けられました。

体育会団体
OICではラクロス部や野球部などの団体がスポーツを体験できる参加型イベントを開催。参加した多くの家族が、学生たちからスポーツの手ほどきを受けました。

ロボット技術研究会
学生たちが製作したロボットを展示。緻密な動きをする二足ロボットなどを実際に動かせるとあって、男の子に大人気。

吹奏楽サークルFiz
開演前から並んで待つ人々も多かったコンサートは、リピーターも多く、ディズニーアニメのテーマ曲など親しみのある演目などで盛り上がりました。



びわこ・くさつキャンパス
経済学部

紀國 洋ゼミ

ゼミ生voice 経済学を使いこなしより良い社会を目指す

石川 真央さん
企業戦略の分析を通じて、論理的な思考方法を学んでいます。私の研究テーマは化粧品業界におけるブランド力の形成です。

儀部 愛樺さん
セレクトショップの戦略をSPA（製造小売）形態を採る企業の戦略と比較する研究をおこなっています。

伊藤 響平さん
産業組織論の理論を応用して、SPA方式やドミナント戦略を用いた企業の経営手法について研究しています。

乾 紫帆さん
企業の戦略的行動を学んでいます。経済の要素はもちろん、経営の要素まで入っていてとても興味深く学べるゼミです。

井上 真琴さん
訪日外国人における滞在日数の長さが何に起因しているかを回帰分析を用いて研究しています。

上田 京司さん
ゼミを通して企業戦略を見出すための視点を養っていくとともに社会人に求められるスキルも磨いています。

紙崎 奨大さん
先生の専門である産業組織論はもちろんのこと、それを考えるにあたって物事を論理的に捉える力を学びました。

安川 幸輝さん
ゼミで学んでいる産業組織論を用いて靴業界における各企業の経営戦略の分析をおこなっています。

北村 有圭莉さん
eコマース市場の拡大に伴う消費者のニーズや購買形態の変化を、アンケート調査に基づいて研究しています。

木下 逸貴さん
ものごとの本質を洞察する力がつきました。その力を活用し、出版業界について研究しています。

佐藤 菜都美さん
テキストの報告やグループディスカッションを通じて企業分析の方法を学びました。今は論文大会に向け先生の指導を受けています。

芝本 真理子さん
企業の決算書を読み解く力が付きました。化粧品のブランド力がどのように形成されているかをテーマに論文を書いています。

島 聖乃さん
2回生では産業組織論の基本を学び、現在は論文大会に出場するため、インバウンドに関して回帰分析を用いて研究しています。

高橋 果奈さん
テーマに沿ってチームで課題を発見し、解決に導く手法を学んでいます。様々なビジネスモデルや分析手法を身に付けました。

中島 侑香さん
ファッション業界の特徴を踏まえ、市場の競争環境が実際の企業戦略にどう影響しているかを研究しています。

若林 祐次さん
eコマースには直販型とモール型のモデルがあり、理論モデルを使いながらその利益構造に関する比較研究をおこなっています。

中村 晃大さん
同じ目的意識を持った学生が集まるので、お互いを刺激しあいながら、学びを深めています。

長谷川 陽太さん
出版業界における日本特有の流通慣行について研究中。出版社がなぜ手間のかかる取次を通すのかに焦点を当てています。

原田 彩美さん
アパレル業界におけるインターネット通販の動向に関心を持ち、アンケート調査を通じて消費者行動の視点から分析をしています。

樋口 一輝さん
寡占状態における企業の行動が他の主体や経済厚生にどう影響するかを分析しています。

藤本 裕大さん
ディスカッションやグループワークを通じて仲間と切磋琢磨できるゼミです。企業戦略を理論的に分析する力を付けることができました。

松原 拓郎さん
経済と経営、理論と現実をバランスよく学べるゼミです。現在は自動車産業におけるOEMの優位性について研究しています。

森 干晟さん
グローバリゼーションが将来国内推計人口に及ぼす影響について、確率的手法を用いて研究しています。

KIM Wookeunさん
卒業後、金融業界に入りたいので、企業への理解を深めるため、産業組織論を研究する紀國先生のゼミを選びました。

ある日の紀國 洋ゼミ

国のデザインから原理の世界へ

教授になる以前、現在の国土交通省で働いていたという紀國教授。「経済学部を国造りに役立てたいと思い、成果が目に見える公共事業に携わる道を選びました。しかし、想像していたものとの違いに悩み、5年程度で辞めることに。好きなことを再びやりたいと考え、28歳で大学院に入り研究の道へ進みました」という、少し異例の経歴。経済学は世の中の謎を解き明かす思考方法を学ぶ学問であり、社会は複雑に見えますが、突き詰めればシンプルな経済原理が見えてきます。その根幹部分を探るのがミクロ経済学で、これを応用したものが紀國教授が専門とする産業組織論です。「経済学はベースをしっかり学び考え方を鍛えれば、様々な問題の解決に応用がきくのです」と伺うと、難しそうな学問も少し興味が湧いてきます。「経済学＝道具です。いきなり理論と数字だけを追いかけると味気ないですから、学生たちには先に道具の使われる対象＝経済活動の現場を見せて、後から詳しい道具と使い方を学ばせています」というのも、紀國ゼミが人気の理由かもしれません。

紀國 洋 きのくに ひろし
経済学部　教授

1989年北海道大学卒業後、建設省に入省。その後北海道大学大学院にて1999年博士号取得。2000年より本学に勤務し、2007年より教授として指導にあたる。拡大生産者責任制度が耐久財の環境配慮設計に与える影響や、知的財産権制度の経済効果について研究。

現役学生も交え、ゼミ同窓会を毎年京都で開催。

リアルな経済を生きた教材から学ぶ

ビジネスモデルを見せつつ学ぶ紀國教授の指導方法により、学生たちは企業の会計報告書を精査するなどして企業を知り、問題意識を持って分析し、原理を学んでいきます。「経済学は企業やビジネスのためだけのものではありません。例えば、拡大生産者責任制度（※）をご存知ですか？簡単に言えば、生産者は商品を生産・販売したのち、使用済みとなった製品にも責任が発生します。電化製品などが寿命を終えた後、生産者の責任で、リサイクルされ、廃棄物の量が減ることにより環境が守られ、私たち消費者にメリットをもたらします。私は経済学を学ぶことで、こうした社会や現状を改善する提案ができる人物になることを願っています。実際、卒業生たちはそうしたバランス感覚に優れ、起業した者もいます」。取材当日のゼミでも、学生たちはアップル社のビジネスモデルなどを考察し、議論していました。彼らの発表を視聴していると、私たちの生活を経済学によって分析することで、違った面白い側面が見え、しかも学びのテーマは身の回りにたくさんあるのだと分かります。

※拡大生産者責任制度：製品に対する物理的・経済的な生産者の責任を、製品のライフサイクルの使用済段階まで拡大する制度のこと

学内の宿泊施設で合宿しながら討論したり、大飯発電所見学など、課外の学びも活発。経済学部ゼミナール大会で受賞するなど、優秀な成績も収めている。

ゼミで自分の研究テーマを説明する学生。専門的な内容を分かりやすく説明する練習をしている。

ゼミナール訪問 vol.40

衣笠キャンパス
文学部

加納 友子ゼミ

ゼミ生voice 「人とは何か」を追求

井口 美咲さん
ありのままの自分を受け入れてくれるこのゼミが大好きです。今はアサーションについて研究を深めています。

岩澤 広和さん
人間関係から生じる人間の心の変化について研究したいと考えています。ゼミの雰囲気は、とても良いです。

太田 美幸さん
心の状態の無意識の現れ方について研究したいと考えています。学生同士の仲が良く居心地のいいゼミです。

小野 晴香さん
自分にも他人にも優しく向き合える、教育人間学専攻の温かい雰囲気や良さが濃縮されたゼミです。

久野 成実さん
自分の意見を発言したり仲間の意見を聞くことが多いので毎回新しい発見があるゼミです。

小林 航さん
将来教員になりたいと思っています。このゼミでは、教員と子どもの心理について勉強しています。

嶋村 利奈さん
自分の好きなことを研究につなげることができます。どんな自分でいても受け入れてくれるゼミです。

城山 渚さん
アットホームな雰囲気の中、和気藹々と交流する中で生まれる考えを大切にし、研究に活かしていきたいです。

田中 駿来さん
ゼミの素敵な先生やみんなと高め合い、学生生活のストレスについて学び、今後に活かしたいです。

平野 貴寛さん
経験への意味づけについて関心があります。意見の交換が活発にできるこのゼミで研究を深めていきたいです。

廣瀬 智章さん
穏やかでほっこりできるゼミです。今はカウンセリングと教育について研究しようと思っています。

藤居 巧さん
それぞれを認め合える素敵な空間だと感じています。心身相関に関連した研究をしたいと思っています。

藤田 美紗都さん
家族のような温かいゼミの雰囲気に毎週癒されています。今は人の向上心について研究していきたいです。

舟川 知宏さん
教員・学生皆が温かい雰囲気が特徴のゼミです。このゼミで自己や他者についての理解を深めていきたいです。

松本 菜央さん
和気藹々とした雰囲気が溢れるゼミです。実際の体験をもとに自己の理解を深めようと取り組んでいます。

森田 竜士さん
ストレスとバーンアウトの関係性について研究しています。QOLの向上を目的に研究しようと思いました。

中原 僚人さん
親子関係における「受け止められる」ということについて、自身の人間観も取り入れながら研究しています。

渡邊 喜さん
自分自身の抱えている感情に対する気づきから人間のタイプなどを通し良好な人間関係を築くスキルを伸ばします。

哲学・倫理学や教育人間学 様々な分野とリンク

文学部に属する人間研究学域という聞きなれない分野は、簡単に言えば人を知るための学問と言えるかもしれません。ここで学ぶ教育人間学は、ドイツの教育学者ボルノーが精力的に研究し、1970年代後半から日本で衆目を集めたものを踏まえつつ、体験を重視する立命館独自の展開をしています。「ここでは人間に関わる様々な研究をおこなうことが出来ます」と加納准教授。哲学・倫理学や教育人間学など、幅広い分野の教員が学びをサポートしており、学生たちはいろいろな側面から人間の奥深い部分を探っています。「私が現在の研究に至ったのは、自分の経験が根底にあるかもしれません。高校時代に母を病で亡くし、でもそのことを人に言えずいろいろなものを抱えて苦しんだ経験から現在の研究に至りました。そして、そのうち心と体のつながりに興味を持ちました。例えば、女性は月経周期により苛立ったり不安になるなど心理的変化を起こすように、心は体の影響も受けるのです」。そのほか、トラウマ（※）などが原因で無意識に心を閉ざしたり気持ちが不安定になってしまうのも、こうした心身相関の影響と言えます。

※トラウマ：外的内的要因による大きな肉体的、精神的な衝撃により、長い間それにとらわれてしまう状態で、また否定的な影響を持っていることを指す。

加納 友子 かのう ともこ
文学部　准教授

立命館大学大学院卒業後、同学にて指導にあたる。研究テーマは、心身相関的介入による心の癒しと教育について。東洋の身体論および治療論と、西洋で発展した心身相関的療法のメカニズムの共通点を探りながら、幼少期さらには誕生以前（胎児期）の心理的問題に対応可能な治療方法の確立を目指している。

自分を尊重し 人を支える人に

ここで学ぶ学生たちは、他者の役に立ちたいという思いや、自分自身について深く知りたいと考えるなど、様々な者が在籍します。人に関する問題を解決するには、人を知る必要がありますが、そのアプローチ方法は多様。対話で探るだけでなく、言葉が話せない頃に抱えたものは、体からアプローチすると有効なことも多いといい、「私は中学時代からおこなっているヨガを使うこともあります。これは意識や集中の仕方がポイントで口では説明が難しいですが、実践して悩みが解決したなど、実感を持つ学生も多いんです。人を知る前に、まずは己を知り健やかであることが大切」と、体を使った手法も取り入れて、自ら実感・体験することも重要視されています。そして現在、学生たちは発表に向けて各自テーマを設定中。加納准教授も学生たちがどんな取り組みを、どうアプローチするのか楽しみにしています。

部活動&サークルWatching vol.12

立命館大学には多くのクラブやサークルがあり、優秀な成績を収めている学生たちも多く、日々切磋琢磨しています。そうした学生たちの今の目標や希望を、代表が語ってくれました。

体育会ヨット部

創部は１９４６年と歴史が古く、これまでに全日本インカレ総合優勝を3度経験。女子部員も在籍し、全日本女子インカレでも健闘している。今年は4年ぶりにインカレ予選を突破し、総合10位に。

4年ぶりにインカレ本選に出場

多くの大学のヨット部では経験者が入部しますが、本学の部員はほぼ初心者。ヨットの操作を基本から学びつつ、琵琶湖近くで合宿し、日々ハードな練習をしています。彼らの練習場所は琵琶湖ですが、大会がおこなわれるのは主に海。波や潮目に対する知識も必要であり、練習とは異なる環境で勝つことは並大抵のことではありませんが、今年は4年ぶりに目標であるインカレ本選出場を果たしました。

石田 佑介さん
主将
経済学部４回生

ライフサイエンス研究会

学園祭でも大人気の科学ショーは、子どもたちにとってマジックショーのようで大人が見ても楽しめる。ネタはなんと100近くあるそう。彼らの活動は、「科学は難しくない、身近で楽しいもの」だと思えるきっかけを作ってくれる。

楽しい科学ショーは子どもたちに大人気

約100名が在籍し、立命の家（P9参照）にも貢献している彼らの主な活動は、科学を楽しく見せる科学ショーの開催。「楽しくてインパクトがあり、身近なもので再現できることを心がけています。例えば、ドラッグストアで買える材料でできるスーパーボールとか」と、聞いているだけでも楽しそう。自分たちが学んでいる科学分野に親しみを持ってもらおうと、地域の小学校や公民館などでショーを披露しており、子どもたちに大人気です。

福井 愼也さん
会長
理工学部２回生

淵 翔吾さん
会計
生命科学部２回生

落語研究会

学内でおこなう公演の告知をするメンバーたち。

最近の密かな落語ブームの影響で、約30名の部員の中には女子学生も。関大×関学×立命合同企画<関関立お笑い三都物語>といった企画など、定期的に自分たちの落語を披露している。学園祭でも彼らのブースは満員御礼で立ち見が出るほどの人気ぶり。

学外でも活動し地域へ貢献

「落語以外にも漫才などお笑いに関するジャンルを扱いますが、やはり落語の技術は必須なんです」という竹田さん。部員のほぼ全員が落語ビギナーで、入部してから古典のDVDなどを見ながら、関西の上方落語は滑稽、関東の江戸落語は粋など、スタイルの違いなどを学びながら覚えるそう。「覚えたネタは、実際にお客さんに見てもらう経験が大事。だから老人ホームなど、年間200近いイベントをしています」と、笑いで地域にも貢献しています。

竹田 幸弘さん
渉外部長
法学部２回生

R.D.C.(立命館ダンスサークル)

BKCが主な活動場所で、屋外で練習する彼らの姿を目にすると、つい見入ってしまう。今年の学園祭でも鮮やかなパフォーマンスで会場を魅了していた。

一期一会のストリートダンス

ダンスといってもジャンルはさまざまですが、彼らの専門はストリートダンス。アメリカ発祥のカルチャーでもあり、そうしたバックグラウンドも大切にしているそう。「振り付けするのではなく、その時の音楽に合わせて即興で踊ります。だから二度と同じダンスはできないけれど、そこが面白い」と安藤さん。メンバーのほとんどが初心者ですが、基本を教われば誰もが踊れるようになるそう。やはり豊かな表現のためには日々の練習が大切です。

安藤 好平さん
代表
経済学部３回生

「自閉症スペクトラムに必要なのは医学的・心理学的研究だけでなく偏見のない理解ある社会」

知への扉vol.6

産業社会学部 竹内 謙彰教授

様々な分野の研究者である教員が在籍する立命館大学は、まさに知の宝庫。ここで学生たちは新たな知識を得て、蓄え、発展させていきます。学生たちが学んでいる各分野の専門知識や、その知識が導き出す未来について、教員の方々に語っていただくシリーズです。

TAKEUCHI YOSHIAKI

1981年京都大学教育学部教育心理学科卒業後、1984年京都大学大学院教育研究科教育方法学修士課程修了、1988年博士課程後期課程修了。2004年愛知教育大学教育学部教授を経て、2007年本学産業社会学部現代社会学科教授。臨床発達心理士、自閉症スペクトラム支援士の資格を持つ。

自閉症スペクトラムとは？

近年耳にすることが多くなったと感じる自閉症。竹内教授はまさにその分野で、学童期における発達の質的転換期に焦点を当てた子どもの発達的特徴や、自閉症スペクトラムを中心とした発達に困難を持つ子ども、ならびに保護者に対する支援に関して研究しています。「自閉症スペクトラムとは、対人コミュニケーションに問題を抱えたり、行動や興味に限定があり強いこだわりを見せるといった言動で、生活に困難を抱えるとされる診断名です。しかし、スペクトラムと言われるだけに、その症状には幅があり、軽度なものなら昔は健常とされてきた人も多いと思います。この20年あまりで研究がかなり進み、ADOS（自閉症診断観察尺度）といった診断補助ツールなども日本版が作成されるようになってきました」。発生率が急激に増えてきているような情報も見かけますが、実際はそれを明確に証明するデータはありません。「昔から一定の割合で発生していたのに、最近では気づかれやすくなり、問題になりやすくなったのかもしれません。なぜなら、現代人はかつての分業制の時代より仕事や社会で人に接することが多くなり、さらに現代社会は複雑で対人関係に多くを求めるからです」。

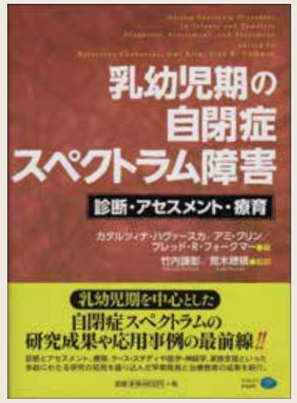
子どもと遊ぶことで知る発達の仕組み

竹内教授に案内された実験室の押し入れを開けると子ども用のおもちゃが。「既製品だけでなく、大学院生たちが自作したものも多く、これらで自閉症スペクトラムを抱える子どもたちと遊びます。子どもの状況に合わせて遊び、観察した記録が発達について知る大切なデータとなります。例えば、設定をもうける<ごっこ遊び>は、見ていると興味深いですよ」。大人が大人役で指示するよりも、大人が子ども役を担当し緩やかに先導すると、受け入れやすくなるそう。「対等性ができることで、提案を受け入れやすくなるんです」。確かに大人として子どもをコントロールしようとすると反抗された経験をお持ちの保護者も多いのではないでしょうか。しかし、自閉症スペクトラムの子どもは、この遊びにも問題が出ることが。「ある子どもは、感触などに強いこだわりがあり、金属の椅子などを嫌うため、座ってもくれませんでした。そこで紙製の椅子を自作してみたら、座って遊んでくれるように。こうしてお互いが理解することで解決できることもあります」。こうした子どもたちがイキイキと力を発揮できるような支援を工夫するには、地道な現場観察によるデータ収集が大切だと竹内教授は考えています。

語り口調も穏やかな竹内教授。「非日常空間で検査するだけではなく、日常の世界で観察することも重要」と。

個性と障害の差はグレーゾーン だからこそ正しい理解が必須

昔から天才と称される人たちの中には風変わりな人も多く、実はそうした人は知能の高い自閉症スペクトラムだったのではないかと言われています。現在でもアメリカには自閉症スペクトラムで読み書きはできないだろうと診断された少年が、アインシュタインを超えるIQを持ち、11歳にして大学に入学する天才児だったという例があります。母親が早くに彼の才能を見抜き、適切な教育を与えた結果だと言われていますが、「だからと言って、これが一般化できると認識されるのは危険です。自閉症スペクトラムの全ての人々が知能が高いわけではありません。また、才能を見出せないのは教育の仕方が悪いなどと、保護者が自分自身を責めたり、周囲から責められることはあってはならないことです」。竹内教授たちのような研究者により、さらに理解が進めばもっと人々は生きやすくなるでしょう。そのためにも、自閉症者を受け入れる社会となるよう人々に理解が広がることが必要だと言えます。



海外の先進的な研究成果や応用事例を翻訳を通じて紹介した本も出版された。

卒業生からの手紙
社会に羽ばたき頑張る卒業生たちからの大学時代の思い出と後輩へのメッセージ

「困難はマイナスではなくバネにできると信じています」

Voice

人生の転機といえば、高校時代かもしれません。実は生まれた時から私には持病があり、体育の授業はいつも見学。子どもだから事情を知らず、どうして自分だけダメなのかと母に辛く当たってました。でも、運動と縁がなかったのに、高校時代にルールすら知らないバスケットボール部マネージャーをすることに。これが弱小チームで（笑）でも、どうせやるなら県大会に出場する！と目標を決めたんです。当時、<もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら>が流行っていて、これを4回熟読して分析、作戦会議を立てて頑張った結果、全国大会ベスト4となりました。この時、運動できなくても違う形で関われること、人をサポートして喜び合う楽しさを知りました。母子家庭でしたから、将来は母を安心させたくて大手企業を志望していたので、就職率の良さと政策科学という未知な分野に心ひかれて立命館大学に入学しました。でも母が難病を発症。修学の危機に陥ったのですが、父母教育後援会の家計急変奨学金のおかげで何とか無事に卒業できました。この制度はとてもありがたかったし、今後も維持していただきたいと思います。バイトも掛け持ちし、とにかくがむしゃらに頑張りました。でもその経験は暗いものではなく、バイト内で成績トップにもなれたしプラスになりました。卒業後も母校で就職活動経験を話す機会がありますが、ポイントは自分で選び、納得し、責任を持つこと。そうすれば、予想外の道に進んでも、また新たな希望が見出せると思います。振り返ると、私は一番になることにこだわって頑張ってきました。持病のことや家庭環境を言い訳にしたくなかったのだと思います。でもトヨタ自動車に入社し、新たに見つけた目標は、一番にこだわるのではなく、ウェルキャブという福祉車両の企画チームに入ること。学生時代のボランティア活動で、弱者は社会が作り出すものでもあると感じた経験が影響していると思います。いつか、人をサポートする車を作るのが夢です。

三通目

森 朱理さん　mori akari

トヨタ自動車株式会社 デジタルマーケティング部
2017年3月政策科学部卒業　愛知県出身

持病を抱えながら夢に向けて、立命館大学の入学を決めた森さん。しかし、保護者の闘病などさらなる苦難が大学生活に降りかかります。しかし、決して努力を惜しまず前を向き、歩んできた彼女はとてもエネルギッシュで朗らか。学生時代から自らに目標とハードルを設定しクリアしてきた歩みは、社会人となった今、新たな目標に向かっています。

京都水紀行③

平安京遷都の鍵は鴨川と新勢力

シリーズでお届けする京都水紀行。今回はなぜ平安京はこの地に据えられたのかその鍵を握るという鴨川と賀茂族について文学部の本郷教授に興味深いお話をうかがいました。

風水だけではない遷都の場所選び

夏号では、桓武天皇が平安京遷都にあたって風水学的に最高の吉相といわれる地相、<四神相応>を取り入れ、場所を設定したというエピソードをご紹介しましたが、実は土地選定の理由はそれだけではありません。遷都の理由は、大雑把に言えばリセットだったと語る本郷教授。「桓武天皇の母は、高野新笠（たかののにいがさ）という渡来系氏族の女性でした。天智天皇の曾孫である桓武天皇は、即位に不満をもつ勢力を退け、天武天皇系に代わる新たな皇統の都として遷都を試みました。平安京の地は古くから賀茂氏と秦氏により開拓された土地で、その支援を期待したものと思われます」。この二つの一族は平安遷都以前より鴨川と桂川の流域に定住して勢力を持っていました。「平城京の都としての弱点は、大きな川がなかったことですが、平安京となる地には鴨川、桂川という豊かな水もあります。さらに遷都には莫大な費用も掛かりますから、桓武天皇はすでにこの地で勢力を持っていたこの二つの一族の力をうまく利用したのでしょう」。

川の氾濫は悩みであり恵み

賀茂氏は大和・葛木山から北上し遷都以前から鴨川流域を開拓して勢力を持ち、上賀茂・下鴨神社を奉祭する氏族。一方、松尾大社を奉祭する秦氏は桂川流域を開拓して発展した渡来系氏族です。やはり古来から人々の定住には、水＝川が不可欠でした。数年前、川沿いの旅館などに被害を出した大堰川（おおいがわ）は昔からたびたび氾濫し、秦氏は治水に尽力しました。<堰（せき）>はダムを意味し、大堰川はその名にも人の手が加わったことを示しています。また、白河天皇が<賀茂河の水、双六の賽（さい）、山法師、是ぞわが心にかなわぬもの>と嘆いたように、鴨川も定期的に氾濫しましたが、この悩ましい災害もかつての都には必要であったと本郷教授。「川が溢れて家屋が流されることは、被害でもありますが、水が全てを流してしまうと、またそこは一から新しくなります。これもまたリセットですね。そのためにはある一定以上の水量を持つ川でないといけませんから、鴨川はまさに都に必要な川だったのでしょう」。平安京は様々な面で川を利用して発展したのです。

文学部
本郷 真紹教授
専門分野：日本古代史

「卒業生父母の会」のご案内

お子様の卒業後も「立命館ファミリー」として母校の発展を応援する組織

新たな立命館ファミリーとして2015年度より「卒業生父母の会」が発足しました。設立に尽力された、当時の会長（三好正晃氏）にお話をうかがいながら「卒業生父母の会」についてご紹介します。

三好 正晃
株式会社辻利
代表取締役社長
2014 年度まで父母教育後援会会長を務め、卒業生父母の会発足にも尽力。

卒業後もサポーターとして学生たちに愛情を注ぐ

「学生たちは卒業すると校友となり、<立命館ファミリー>の一員としてずっとつながっていきますが、保護者にはそうした組織が残念ながら今までありませんでした。しかし、保護者の方々の大学への愛着は深く、「子どもの卒業後も立命館大学と関わりを持ち続けたい」、「一人暮らしの我が子がお世話になった。今後は後輩でもある学生たちを応援し恩返しをしたい」などという声が大変多くあり、その思いを実現させたのが<卒業生父母の会>です。これは全国の大学の父母会においても珍しい組織ですが、この会が父母会のサポーターとして、また新たなつながりを大切にしながら団結することによって大きな力となり、より良い大学への一助となることを願っています」。

全国に広がる立命館ファミリーの輪

2015年度に発足した「卒業生父母の会」は、初年度276名、2016年度311名、2017年度406名のご加入をいただきました。また、全国47都道府県から学生が集う立命館大学の特徴を反映し、「卒業生父母の会」も47都道府県中、43都道府県からご加入いただいており、全国にご支援の輪が広がってきています。

学生の保険医療費補助に活用させていただきます

会員の皆様からご支援いただいた会費（計633万円）は、ふさわしい学生支援の使途が定まるまで父母教育後援会本体の予算とは別に、大事にプールしてまいりました。（2015年192万円、2016年194万円、2017年247万円）今年度、学生の健康を守る取組みとして新たに開始した、保健センターを受診した学生の保険医療費の自己負担分の補助が、その用途、予算規模とも、「卒業生父母の会」の会費を使わせていただくにふさわしいと判断し、2017年度よりこの事業予算として活用させていただきます。今後とも学生の健康維持のため、ご支援賜りますようお願い申し上げます。

ご卒業後も立命館大学の様々な魅力に触れていただけます

「卒業生父母の会」にご加入いただくと、父母教育後援会が全国で開催している「都道府県懇談会」にご参加いただけます。各会場では立命館大学の教員による「アカデミック講演会」を開催しておりますので、ご卒業後も立命館大学の教育・研究に触れていただけます。また、教員の解説を聞きながら京都の歴史や文化を学ぶ「アカデミックウォッチング」や「学園祭への招待」など、立命館大学の様々な魅力に触れていただけます。

「卒業生父母の会」の会員を対象に、コースを設けます。日程は3月中旬にお知らせします。

check

入会申し込みのご案内

3月中旬に、卒業予定者の会員の方へ「入会のご案内」を郵送でお送りします。入会をご希望の方は、期日までに申込書をご提出の上、会費をお振込ください。

［年会費］正会員：10,000円　準会員：3,000円

information 父母教育後援会からのお知らせ

2017年度卒業式のご案内

	2018年3月20日（火）	2018年3月21日（水・祝）	2018年3月22日（木）
キャンパス	衣笠キャンパス	大阪いばらきキャンパス	びわこ・くさつキャンパス
式典会場	京都衣笠体育館	グランドホール（B棟2階）	BKCジム
家族会場（中継）	以学館1・2号ホール	372教室（C棟3階）	卒業生と同じ式典会場へお入りいただきます
対象学部	10:00～　文学部 12:30～　法学部、国際関係学部 14:30～　産業社会学部、映像学部	10:00～　政策科学部 12:00～　経営学部	10:00～　経済学部、スポーツ健康科学部 12:30～　理工学部 14:30～　情報理工学部、薬学部、生命科学部

※車椅子でのご来場・手話通訳をご希望の場合は、大変恐れ入りますが予め所属学部の事務室へご連絡ください。

※衣笠キャンパス、大阪いばらきキャンパスでは、ご家族の方は「家族会場」へご案内いたします。家族会場では、式典の様子を映像でご覧いただきます。予めご了承ください。

※ 式典は、約1時間の予定です。

※ 本学には駐車場はございませんので、各キャンパスへは、公共交通機関でお越しください。

※ キャンパス内は、全面禁煙です。キャンパス周辺での路上喫煙もご遠慮ください。

卒業生へ贈る立命館ファミリーの記念

社会へと旅立つ学生たちに、毎年父母教育後援会より記念品を贈呈しています。今年度もオリジナル袱紗を記念品として製作。慶事や弔事の両方に使えるもので、大学発祥の地である京都・西陣織の袱紗には、美しい織柄が施されています。

濃紫の袱紗はよく見ると、RITSUMEIKANの文字が織り込まれている

校友会からのご案内
～3回生以上の方へ　校友会から会報「りつめい」を贈呈～

今回、3回生以上（薬学部薬学科は5回生以上）の会員の方には、立命館大学校友会が発刊している会報「りつめい」を同封しました。校友会は約35万名の立命館大学卒業生で構成されており、地域や勤務先ごと、学部・学科やクラブ・サークル単位など、世代を超えたグループが多数あります。また、20代校友の間では異業種交流会やスキルアップ企画などが盛んで、年齢が近い校友が集まり卒業後に新たなネットワークを築いています。

このように、お子様が立命館大学を卒業された後には、大きなネットワークがあり、そこでさらに立命館と繋がり続け、活躍されることでしょう。ぜひ会報「りつめい」で、立命館の校友会をのぞいてみてください。

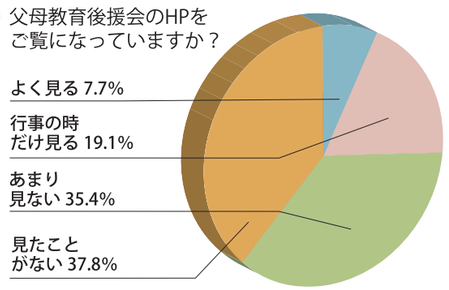
立命館大学校友会HP　https://alumni.ritsumei.jp/

（会報「りつめい」バックナンバーもHPから閲覧できます）

皆様のお声が誌面作りに役立っています

父母教育後援会だよりは年3回お送りしており、毎号アンケートにご協力いただいています。2017年度夏号でいただいたご意見を紹介します。

Q 父母教育後援会のHPをご覧になっていますか？



comment

・今回のアンケートをきっかけにHPを見ました。とても見やすく情報も豊富だったので、今後も時々見るようにしたいです。特にギャラリーの写真でキャンパスの日常の様子が載っていて、急に寒くなったことを実感できました。離れているので季節の様子等たくさん載せて頂きたいです。

・「教員によるミニ講座」を動画視聴しています。学生気分に戻ったようで楽しんでいます。

【皆さまからのお声】

会費の68％を学生の為に使っていただいているとのこと。100円朝食や保険診療費の補助等。一人暮らしをしている学生の保護者にも安心できる取り組みだと思います。
（鳥取県、経営、4回生、男）

保険診療費の補助は子どもに伝えました。父母教育後援会が様々な学生支援事業をおこなっている事を知り大変心強いと思いました。
（鳥取県、文、1回生、女）

子どもがこの春卒業しまして無事社会人一年生となりました。これも立命館大学での4年間のお陰であり、卒業しても立命館とつながっていたいと思い、卒業生父母の会の正会員になりました。子どもも愛知に戻ってからも大学とのつながりを持っていたいようです。父母教育後援会だより楽しみにしています。
（愛知県、産社、卒業生、女）

食レポート分かりやすくまとまっていて良かったです。離れて生活しているので気になる点が色々あります。学生の経済事情やアルバイト事情など、子どもの口からは聞けないリアルな現状をこれからも色々と教えていただければと思います。
（東京都、産社、2回生、男）

毎回楽しく拝見させていただいております。久保先生のSOFIX凄いなと思いました。桜の開花数が順調に増えてると聞いて嬉しくなりました。
（情理、4回生、男）

ゼミナール訪問はいつも関心ありますが、小川先生の交通問題は非常に興味深く、今の社会の中では古典的な分野の他にも、この様な今でこそ問題である分野もあり、というところが良かったです。
（静岡県、法、2回生、女）

卒業生からの手紙では遠回りで無く必要な経験と出会いを得るための道であったことと自分の夢をあきらめず再度挑戦された事に感銘を受け、娘に伝えようと思いました。
（兵庫県、政策、1回生、女）

2回生より実家を出て大学の近くで新生活を始めました。親としての心配事はやはり食事面と健康面です。こういった保健センターでの診療が受けられるようになり心強くありがたく思います。学生にも広く周知していただけるとありがたいです。
（大阪府、理工、2回生、男）

古本募金へのご協力をお願いします！

申し込み方法

父母教育後援会のwebサイトより、古本募金のページから申し込み用紙をダウンロードしてください。

http://www.ritsumei-fubo.com

→ 取り組みについて → 古本募金

古本募金

被災地支援に向け、2014年度から始まった古本募金は、今も多くの方々のご協力に支えられ活動が続いています。現在、1,106件、97,864冊の古本募金が集まり、募金総額は1,645,004円（10月末現在）となり、立命館災害復興支援室が取り組む復興支援活動に役立てていきます。

古本募金に必要な古本の引き取りは指定業者がおこなうため簡単です。父母教育後援会会員でなくても参加可能なので、ご近所やお知り合いの方々もお誘いいただき、多くの募金が集まるようご協力をお願いします。